

地域漁業の担い手育成に取り組んで
—吉里吉里中学校水産教室をととして—

大槌町漁業協同組合青年部
部長 堀合 俊治

1. 地域の概況

大槌町は、岩手県東部、陸中海岸のほぼ中央に位置し、海岸線は、大槌湾と船越湾に分かれ、私たちの住む吉里吉里地区は船越湾側に面している（図1）。

大槌町全体の人口は、平成10年には6,108世帯 18,610名であり、吉里吉里地区の人口は、1,047世帯 3,333名である。

2. 漁業の概況

大槌町漁業協同組合は、現在、組合員1,037名で正組合員872名、准組合員165名からなり、その漁業形態は、突棒漁業、イカー本釣漁業さらにはイサダ漁業などの漁船漁業とワカメ、ホタテ養殖漁業が盛んである。

なかでも吉里吉里地区は、ワカメ、ホタテガイ、カキの養殖業が中心となっている。平成10年度の当地区での生産実績は、生ワカメが生産量で19トン、金額は200万円、ボイル塩蔵ワカメが260トンで2億円、生原藻に換算すると870トンになる。また、ホタテガイが180トンで6,500万円、そして、カキが48万個で3,400万円である（図2）。

3. 研究グループの組織と運営

当青年部は、昭和60年8月、部員40名余りで発足して以来、メジマグロ延縄試験、陸上の葉・イタドリを餌料としたウニの中間育成試験、トリガイ養殖試験などを研究課題とし、地域に密着した漁業振興に取り組んでいる（表1）。

近年の厳しい漁業環境が反映し部員が減少し、現在、職員を含む20名の部員で活動している。

少ない部員ではあるが青年漁業士2名のほか、前部長は先頃まで県漁青連の会長を務めるなど指導的な立場にもあり、県内の青年部活動をリードしてきた。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

今回は、担い手育成と言う観点から吉里吉里地区で7年間継続実施している水産教室を題材に発表する。

この水産教室は、吉里吉里中学校1年生の課外授業の一環として、PTAが主体となり計画し、ワカメ養殖の一連の養殖行程を学習することにより、地域の水産業を学ぼうという目的で当青年部、吉里吉里地区養殖組合及び漁業士が協力し開催している（図3）。その際、助言者として教室内での講義を県の普及員が行っている。

当初、水産教室は、中学校のクラブ活動の資金不足に対応したもので、学校とPTAの連携で始められた。ワカメ養殖は地域を代表する産業であり、漁協の協力を得て販売しその目的をはたしてきた。

この7年間で教育現場や社会情勢から当初の目的は変化し、教育サイドからは、生徒の健全育成や地域活動への参加としての価値が高まり、漁業サイドからは、地域漁業の理解と次世代の後継者育成という面で、熱い期待を持っている。

5. 研究・実践活動状況及び成果（効果）

水産教室の主な行事は、次のとおりである（表2）。

- ・ 5月……………年間計画の打ち合わせ
- ・ 7月……………第1回水産教室「養殖の概略と採苗について」
- ・ 10月……………第2回水産教室「栄養塩と生長について」
- ・ 1～3月…………ワカメの生長調査を6回実施
- ・ 2月……………第3回水産教室「ワカメの収穫と加工について」
- ・ 3月……………収穫作業

5月の年間計画の打ち合わせでは、学校、PTA、青年部、養殖組合、漁業士及び普及員で、日程の確認と活動内容について意見交換をおこなった。

7月の第1回水産教室では、普及員からワカメの生活史について講義があった。これは、学校側が理科の授業のカリキュラムに組み込んだもので以後の2回も同様に、理科の授業の一環として実施された。さらに青年部と漁業士が顕微鏡などを使ってワカメの遊走子観察やのれん作りから採苗作業まで指導した（写真1）。また、PTA、青年部及び漁業士が中学校の校庭を利用して、柵ロープの掃除も行った（写真2）。

10月の第2回水産教室では、普及員から栄養塩と生長について、講義と実験が行われた（写真3）。生徒は、栄養塩の濃度により発色が違うことを実験で確認したときには、見た目では差がなかった海水に違いが見られ驚いた様子であった。

11月には、青年部が主体となって、保苗中のワカメ採苗器の掃除を行った。

1月から3月にかけておこなったワカメの生長調査では、1班5、6名が青年部員の船に乗船し、班ごとに計6回、漁場で水温やワカメの生長について調査した（写真4）。また、これとあわせて、生徒は船越湾を定点とする県水産技術センターの栄養塩データを利用し、栄養塩と生長の関係についても調べ、取りまとめた。

2月の第3回水産教室では、普及員から収穫と加工について講義があった（図4）。講義では、ワカメの刈り採りから水揚げまでの作業内容がビデオで紹介された。また、ボイル塩蔵の作業行程とタレストリスを中心とした虫害などについても、写真やOHPで説明が行われた。

昨年3月の収穫では、漁場が多少時化していたため養殖組合、漁業士及び青年部によってワカメの刈り取りを行い、生徒やPTAは集荷場でのワカメの選別、ボイル塩蔵作業が行われた（写真5）。

このように、ワカメ養殖の一連の概略を学習し、種付け・生長調査・収穫を体験することにより、ワカメ養殖、ひいては地域の漁業について理解を深め、興味を持ってもらい、1人でも多くの後継者が育ってくれることを願っている。

生徒の活動の様子は、日頃の手伝いも少ないためか作業に入るのに躊躇する者もいましたが、作業を通して徐々に活気ある歓声をあげていた。

また、生徒から質問が出て、回答に冷や汗をかく時もあり、その好奇心に水産業への興味的一端が感じられた。

6. 波及効果

この水産教室は、PTAなどのバックアップが充実しているため、スムーズな運営がなされており、これからも長く継続できるよう青年部としても協力を続けていくつもりである。

現在、後継者対策は全国的な問題で、当漁協でも深刻なものとなっている。当組合の養殖業者の平均年齢は、およそ60歳前後と何れも高齢者が主体となっており、養殖漁場の更新時には必ず廃業者が出るのが現状であり、新規加入者が皆無に近いことから高齢化により拍車がかかっている。

このような問題の一対策として、漁業後継者ひいては新規加入者を促す水産教室の手伝いを継続している。

7年を経過し、最初の水産教室に参加した生徒も成人となり、この水産教室を通じて漁業を始める若者が、近い将来、誕生することを期待している。その時は、部員一同、温かく迎え入れたいと考えている。

7. 今後の課題

今後は、この水産教室が中学生だけではなく、当町内の小学生、高校生にも幅広く、青年部で対応出来ればと考えており、さらには、この水産教室をきっかけに青年部活動がより活発になるよう、いっそう努力していきたいと思っている。

注) 文中の(写真)の添付は省略する

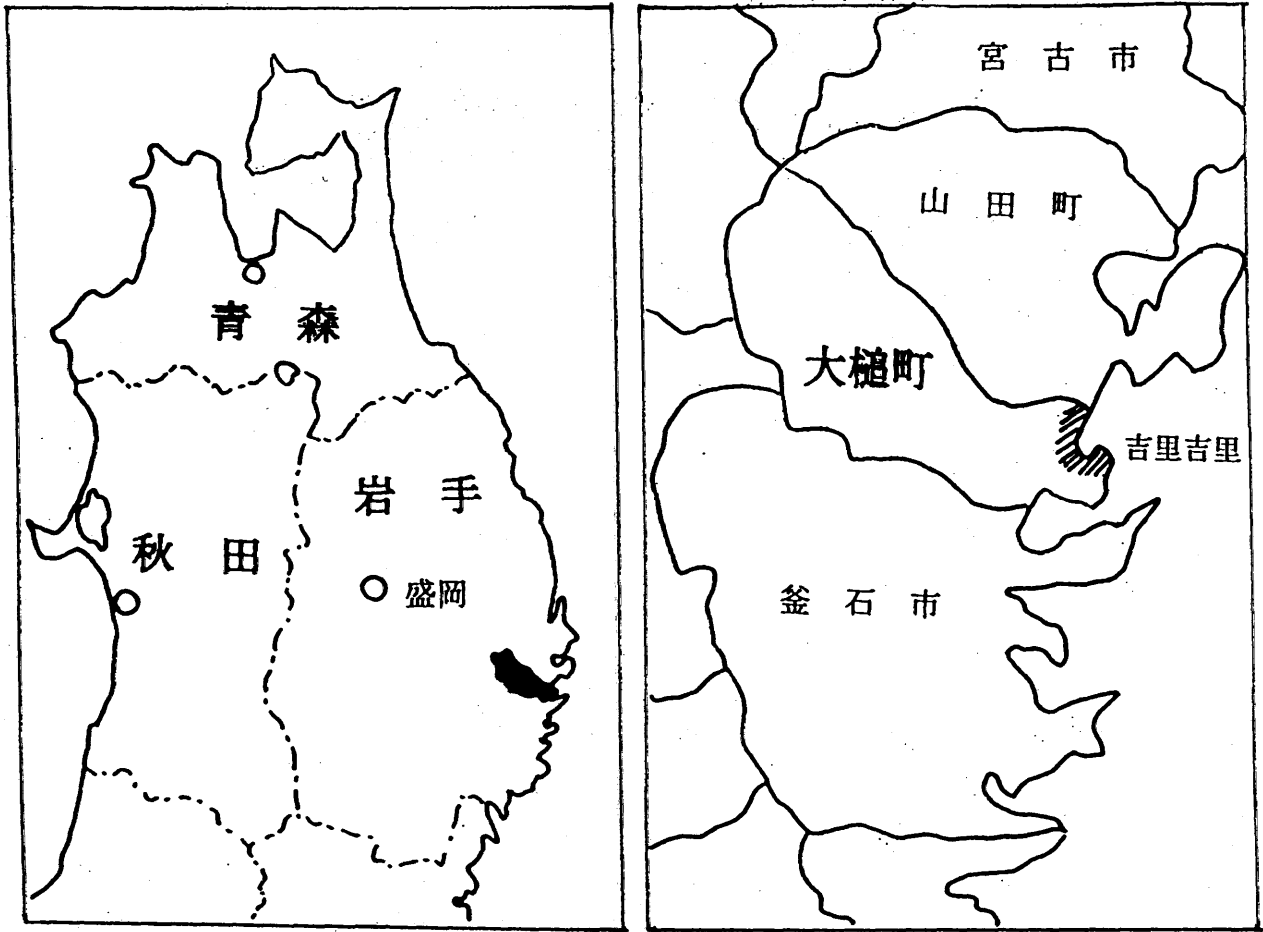


図1 大槌町の位置

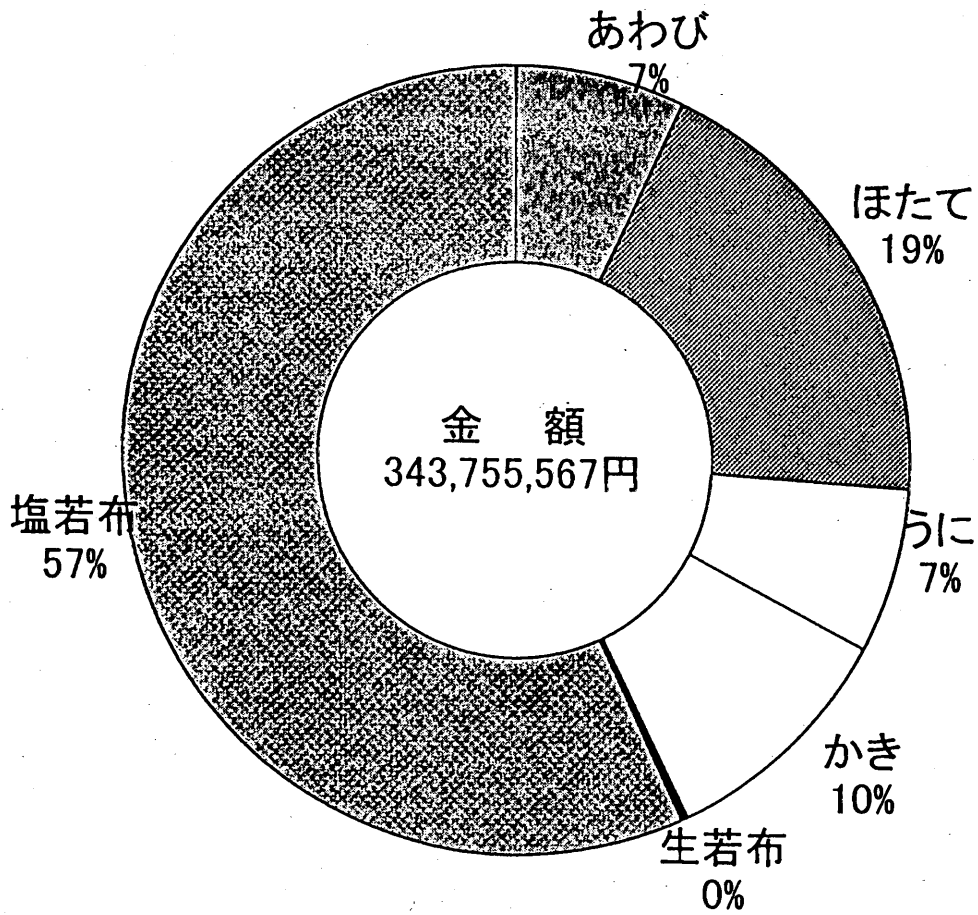
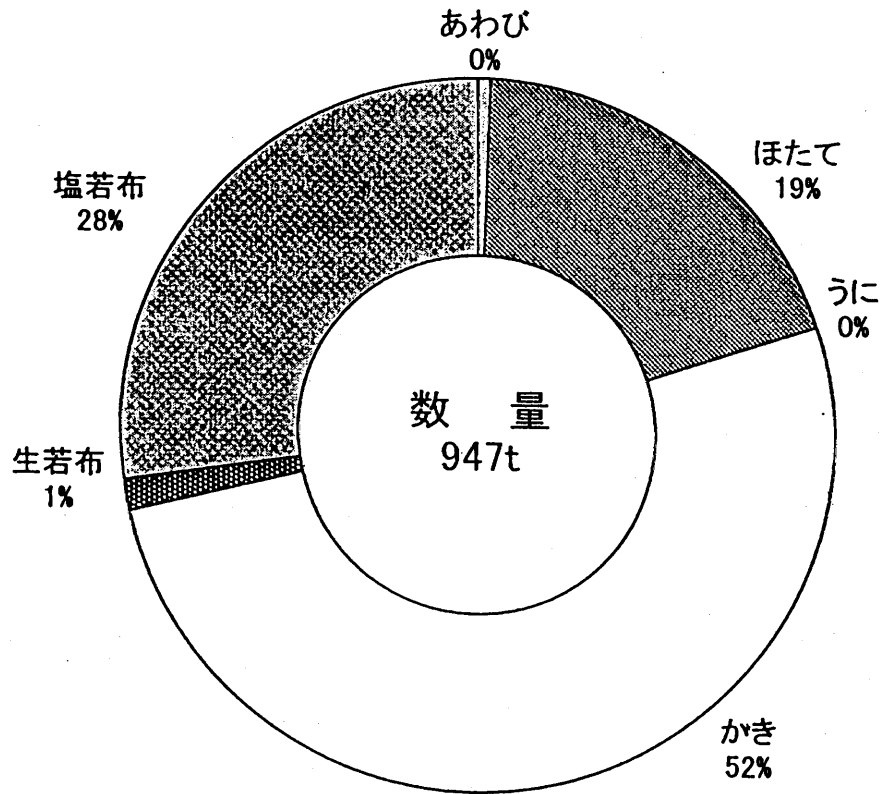


図2 平成10年度吉里吉里地区共販取扱高

表1 主な研究課題

- ・メジマグロ延縄試験
- ・ホタテガイ海底育成試験
- ・イタドリ（陸上の葉）によるウニの中間育成試験
- ・トリガイ養殖試験
- ・マツモ養殖試験
- ・アカガイ養殖試験

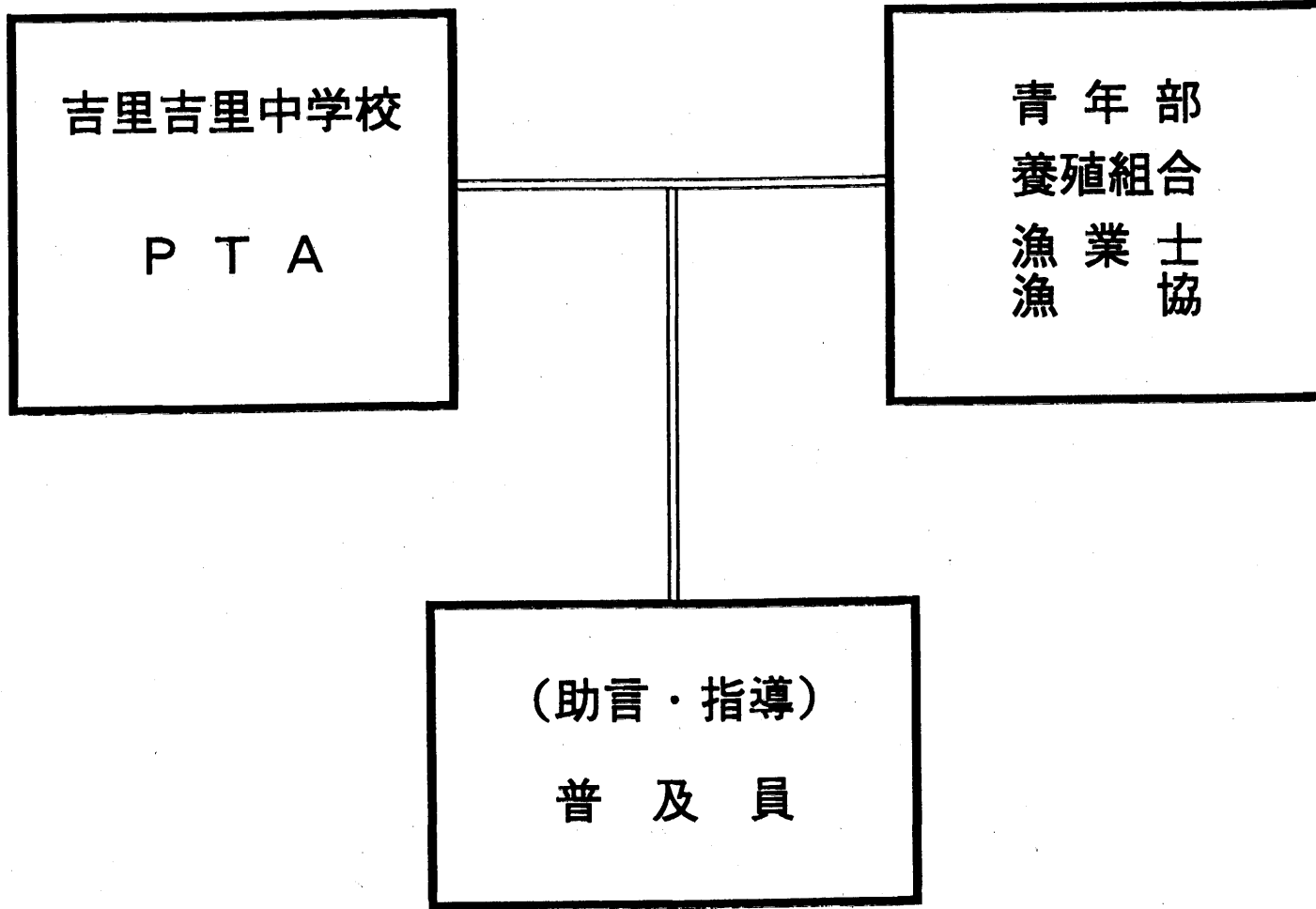
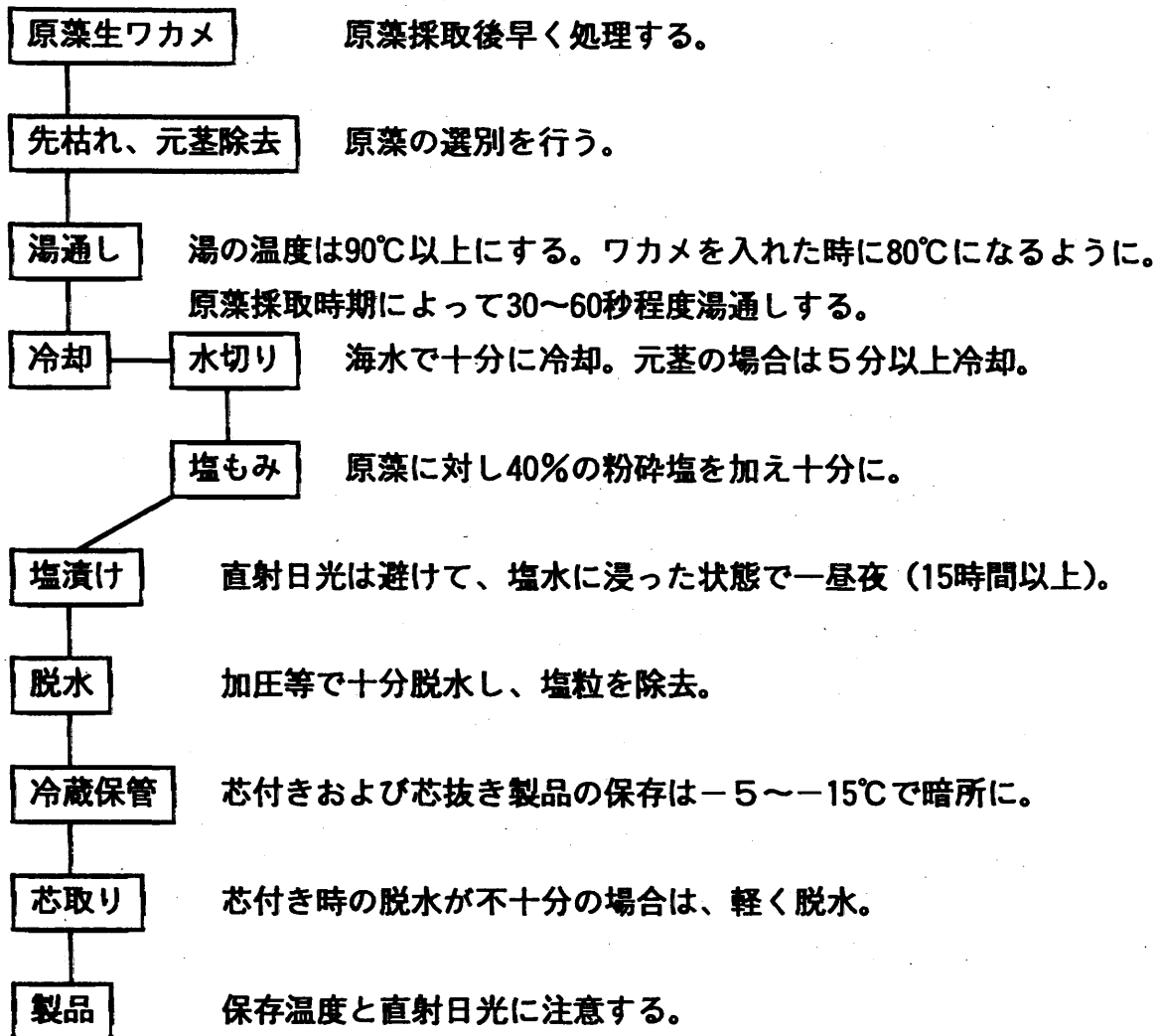


図3 協力体制

表2 吉里吉里中学校水産教室年間計画表

月	内 容
5	年間計画打ち合わせ
7	第1回水産教室「養殖の概略と採苗について」
10	第2回水産教室「栄養塩と生長について」
1	ワカメの生長調査開始（3月まで6回実施）
2	第3回水産教室「ワカメの収穫と加工について」
3	収 穫



粉碎塩と精製塩での違い

- ・塩化ナトリウム含有量が異なる。粉碎塩にはマグネシウム、鉄などの微量成分が入っている。
- ・塩蔵加工製品において塩粒の大きさが異なる可能性があるが、塩使用量などは同じ。つまり、塩は一度、ワカメ中の水分で溶解して浸透するため。

図4 湯通し塩蔵ワカメの加工行程